



環境にやさしい オフィス創りへの挑戦

セイコーエプソン株式会社
代表取締役社長 碓井 稔

千 字 万 感

近年、文書管理の効率化や低コスト化、環境問題の改善策としてペーパーレスが言われます。一方で、紙の利便性を支持し続けてくださるお客様も多数いらっしゃることも事実で、この方々の期待に応えていかねばと考えています。

そこで弊社は今年から、インクジェット(IJ)方式の高速複合機「WorkForce Enterprise」を、そして昨年からの乾式オフィス製紙機「PaperLab」の販売を開始しました。複合機で一般的に使用されているレーザー方式の開発も行っていましたが、数年前にIJ方式の開発に資源を集中させました。環境にやさしく、印刷コストも劇的に安くできるIJ方式で新たなプリント環境を創り出したいと考えたからです。併せて、使用済みの紙からオフィス内で新たな紙を作り出す機械「PaperLab」によって、循環型のオフィスを創り出そうと考えました。これにより、機密文書の処理も社外に持ち出すことなく簡単に行える利便性もご提供できます。

IJ方式のプリンターと言うとご家庭のプリンターを思い浮かべ、印刷スピードが遅い、インク代が高いと思われる方もいらっしゃるかもしれません。ところが実際には、IJ方式は印刷ヘッドから紙に向かってインクを吐出させるだけで印刷プロセスが完結する、非常にシンプルな印刷方式で、高温の熱源も必要としません。印刷ヘッドを紙幅全域に配置し、家庭用より格段にノズル数を増やすことで、高速複合機「WorkForce Enterprise」では最大100枚/分もの印刷スピードを実現しました。このような高速プリンターでも320W程度の消費電力で済み、通常の100V電源でも使用できます。インクカートリッジも大容量化できますので劇的に印刷コストを下げることができるのです。

「PaperLab」の開発はレーザー方式のプリンター開発を中止すると同時に始めました。これを開発してくれたメンバーは元レーザー方式の開発者です。「PaperLab」はほとんど水を使わず使用済みの紙を新たな紙に作り変える機械です。給排水設備が不要ですからオフィスにも設置可能です。使用済みの紙を投入してから約3分で紙の生産が12枚/分のスピードで始まり、紙に色を付けたら、紙の厚みを変えることなどで、紙に新たな価値を付加することも可能です。

ペーパーレス化の流れは押し戻すことはできないでしょう。しかし、紙の利便性を求める強いニーズがあることも事実です。紙文明を新たな形で進化させる必要性を感じずにはられません。IJ技術と「PaperLab」の進化で、コストを気にすることなく快適に印刷でき、機密文書のセキュリティも保て、環境にやさしいオフィスを創り出したいと考えています。